

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	総合政策研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 2011年を目途に、理念・目的を具体化したアドミッションポリシーを策定する。	→アドミッションポリシー策定の有無。	A	A	A	A	A
2. 理念・目標を社会にアピールする方策を策定する。	→学内での検討会、総合政策研究科HPの更新・利用状況、公開シンポジウム開催状況、学外説明会開催状況、受験者数・入学者数	B	B	B	B	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 総合政策研究科では、その理念・目的の実現のため、アドミッション・ポリシーを定め、人材の育成と研究の推進に努めている。2013年度は、研究科のさらなる発展をめざし、大学院FD・カリキュラム検討委員会を中心にカリキュラム等の改正作業を進めている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 残念ながら、総合政策研究科では志願者減少から、長期的な定員割れが続き、抜本的な対応が必要となっている。これは主に国公立大学の大学院重点化の進行や、都市部での社会人大学院の増加等によって、神戸三田キャンパスの大学院への志願者が減少したことによる構造的な問題が原因と推測される。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2013年度には、定員割れの問題に対処するため、大学院定員削減とカリキュラム改訂の作業を開始し、2016年をめどに実施する予定である。改訂後は、研究者養成と特定分野(国際および建築)の高度専門職業人養成に特化したカリキュラムに変更する計画である。	☆
		その他 高度専門職業人養成については、建築士プログラムとともに、グローバル化に対応した国際・外交コースを整備していく予定である。	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科の理念・目標については、現在、将来構想検討委員会を中心に、将来像について検討しているところである。現在、総合政策研究科は開設時に比べて、様々な社会条件が変化しており、定員割れが常態化している。このため、将来構想検討委員会では大学院定員の大幅な削減ならびにカリキュラムの抜本的改訂に向けて議論を重ねている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度は、将来構想検討委員会からの定員削減・カリキュラム改訂の答申にしたがい、2016年度からの実施に向けて、具体的な検討に入ったところである。主な論点としては、①定員削減、②昼夜開講制の改廃、③カリキュラムの簡素化などである。その過程で、研究科の理念・目標の修正を図りたい。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後、たんなるカリキュラム改訂にとどまらず、理念・目標の修正を早急に実施して、あらためて社会にアピールすることを計画している。	☆
		その他 今後も、リサーチ・コンソーシアム等を通じて産官学民の共同研究体制の構築をめざす。さらに新たな会員の獲得によって、総合政策研究科を中心とした研究ネットワークの確立を図る。また、留学生の受け入れ等によるグローバル化を進める。	☆
		備考 1999年の開設以来総合政策研究科は、研究者養成＋高度専門職業人養成の両立を目指してきたが、日本の高等教育全体をとりまく状況から、定員・カリキュラム等については大幅な変更を迫られる模様である。	☆